

しょうけい館（戦傷病者史料館）

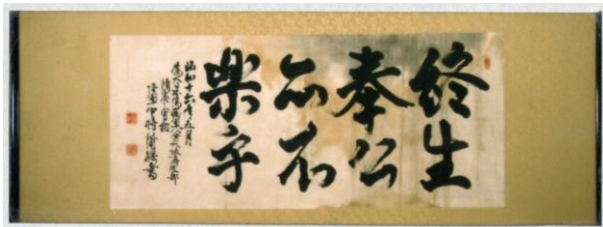
新収蔵資料と証言映像の紹介展

会期：平成24（2012）年10月2日～2月28日

今回は、当館が新たに収蔵した資料の中から、大阪府傷痍軍人会様より寄贈頂いた戦時中に大阪府に設立された傷痍軍人会館の開館記念の書などを展示します。

また、新たに当館で制作した戦傷病者の証言映像をシアターで上映します。今回は、日本赤十字社の元救護看護婦、元陸軍看護婦の映像もございます。あわせてぜひご覧ください。

■主な展示資料（*会期中、展示資料の入れかえを行います。）



大阪傷痍軍人会館の開館記念の書

「終生奉公亦不楽乎 昭和十六年五月

為大日本傷痍軍人会大阪府支部 修養会館

陸軍中将 蒲穆

*蒲穆氏は当時の大日本傷痍軍人会副会長、戦後は日本傷痍軍人会会長となる

■上映映像

「人間の尊厳の回復につくした人生」

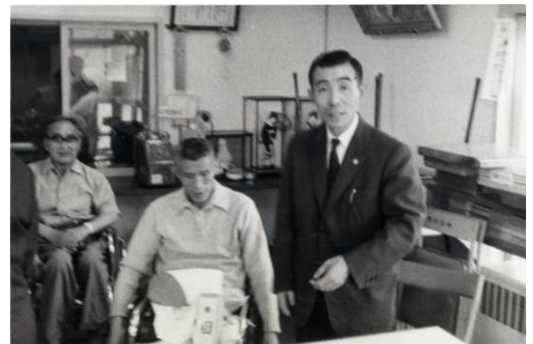
（陸軍／昭和18年7月

中国で右腕負傷。右上膊部切断）

「両眼失明が切りひらいた戦後の人生」

（海軍／昭和20年7月

呉沖の戦艦「伊勢」艦上で負傷。両眼失明）



（箱根療養所を慰問）

「陸軍看護婦に志願して」

（昭和18年～20年、大阪金岡陸軍病院勤務）

「看護ひとすじ」（日赤救護看護婦）

（昭和フィリピンの病院勤務）



（マニラの兵站病院にて）

「南方の戦火をくぐった救護看護婦」

（昭和マニラ、ラバウル、パラオ等の病院勤務）